

平成25年度・千島学説東京セミナーに向けて -----日本文明から農・医(療)・出産を観る-----

会員の皆様、如何がお過ごしでしょうか。今年25年度も、東京にて千島学説セミナーを開催致しますので、千島学説から、お互い大いに学び、深め合いたいと思います。

さて、日本を取り戻せをスローガンに、戦後レジームからの脱却を目指して第二次安倍内閣が発足しました。このことは、戦後、日本及び日本人が縛られてきた歴史観を問い直し、政治的にも自立し、日本の文化・伝統を取り戻そうということなのでしょう。だが、近代とは、近代主義とは、いったい何であり、何であったのかを問うこと抜きに、日本及び日本人は取り戻せないような気がしてなりません。今セミナーは、日本文明とは如何なるものであるかを考えつつ問題を掘り下げていこうと思います。

まず、『農』についていえば、化学肥料を使用しないと米の収穫は半分になるというのが、農業試験場での調査結果であり、農薬を使わないと35%収穫が減るとというのが、専門家の意見だといえます。また、除草剤をまかないと3割ぐらい収穫が減るともいいます。未だに、これが農学、作物学の常識です。ですが、赤峰親方の循環農法、今野時雄氏の自然農、越川義雄理事や杉本徳仁理事の自然農法を観れば、この常識も、すぐに吹き飛んでしまいます。

また、日本の農薬使用量は世界一といえます。1986年、国連食糧農業機関(FAO)が公表した統計データをもとに片野學東海大学農学部教授の計算によると、全世界の農薬使用金額に対する日本の割合は、除草剤62.1%、殺虫剤38.9%、殺菌剤69.8%となっており、この3つの薬剤を合計すると54.6%にも達するといえます。安全第一、新鮮な野菜、地産地消を唱える日本の農が、ガンや、特にアレルギー疾患の発症の原因となる化学薬剤が斯くもばら撒かれているのです。日本を取り戻す前に日本人の健康はどうなるのでしょうか。

『医』についても、ガンによる死亡者は増加の一方です。今や、3人に2人は、ガンと宣告され時代です。ガンを恐ろしいもの、死病にしたのは、ガンの三大療法ではないでしょうか。手術は致し方ない場合もありますが、特に、抗癌剤療法、放射線療法こそが、ガンを死病にしてしまったと言っても過言ではないと思います。そもそも、近代医学は、病氣の原因を細菌・ウイルスととらえ、または、原因がわからないまま、症状をとりあえず緩和するか、症状を食い止めるだけのその場凌ぎの対症療法であり、手術による患部の切除か化学薬剤の投与しかないので。悴山代表も、常々、言っておりましたが、医師の勧める抗癌剤、放射線療法を逃れたガン患者は助かる人もいるが、最後まで抗癌剤、放射線療法に付き合った人は誰一人助かったものはいないのです。

そして、今、また、ワクチンが大いに喧伝されています。インフルエンザは寝てれば治ります。インフルエンザで死ぬことはあり得ません。インフルエンザで死ぬのは解熱剤やタミフルなどの化学薬剤が原因です。ワクチンの成分は毒物に過ぎません。ワクチンの悲劇の歴史をふり返れば、如何に恐ろしい薬物であるかがよくわかります。

酒向猛先生は、日本の医療費の8割以上は無駄な療法であり、患者に治る見込みのない医療を施し、日本は確実に医療亡国の道に突き進んでいると言い切ります。近代医学・医療の本当の姿を明らかにしなければなりません。我が民草が子孫孫生き抜くためにもです。

このところ、『ips細胞』による再生医療が夢の医療として注目され期待されていますが、山中伸也先生の真摯な態度と研究には大いに共感しますが、西洋医学を基礎にした医学理論で成果が期待できるのでしょうか。多くの人たちの夢を壊すようで心苦しいのですが、千島学説を学ぶ者として、大いに疑問を持たざるを得ないのです。更に研究を深めねばなりません。

さて、今回は、人が生きるうえで元氣と夢を与えてくれる『出産』から学ぶ—も取り上げました。若い人たちが子を産み育てることに苦痛や違和感を覚える人が少なからずいるといえます。また、きわめて自然である出産がなぜ病院でなされなければならないのか。大いに疑問のもつところでもあります。セミナーに多くの会員の皆様のご参加を心よりお願い申し上げます。(事務局)

平成25年度 千島学説東京セミナー

日 時 平成25年5月18日(土) 午後1時～19日(日) 午後5時25分
・会員総会 5月18日(土) 午後12時～12時45分

会 場 東京都豊島区医師会館4階 (親睦会□□□・・・同室)
〒171-0021 東京都豊島区西池袋3-22-16 TEL 03-3986-2321

会 費 ・会員 1) 両日参加4000円 2) 1日参加2500円
・非会員 3) 両日参加5000円 4) 1日参加3000円
・学生 5) 両日参加2000円 6) 1日参加1000円
7) 親睦会出席は別途3000円

参加申し込みは予約制です。メール・電話・FAXにてご連絡頂ければ、郵便振替用紙をお送り致しますので、事前に参加費を郵便振替口座にお振り替え下さい。お振り替えをもって参加と致します。宜しくお願いします。

・口座名 千島学説研究会 口座番号 00970-6-63467

主 催 千島学説研究会

・セミナー実行委員長 鈴木一策 (國學院大學教員・哲学)
実行副委員長 杉本徳仁 (自然農法家・理事) 稲垣実 (薬局経営者)

・セミナー学 頭 衛藤公治 (衛藤クリニック医院・院長・医師)
副学頭 小松健治 (あうん養生庵・庵主・医師)
酒向 猛 (島村トータルクリニック・外科医師)
小島秀樹 (小島国際法律事務所代表・弁護士)

連絡先 千島学説研究会東京事務局 仁志天映 病癒し所『天心』
〒225-0002 横浜市青葉区美しが丘1-19-2、4-6-106 TEL&fax 045-902-2034
携帯 090-2328-7016 e-mail:nishi-tenei@nexyzbb.ne.jp

千島学説研究会事務局 倅山房子
〒567-0001 大阪府茨木市安威2-24-13 TEL&fax 072-643-8579
e-mail:tishima@live.jp

会場案内図



◎会員総会 セミナー開始に先立ち、午後12時～12時45分まで会員総会を開催致します。
会員の方は出席の程、宜しくお願い申し上げます。弁当用意(1000円)

第1日目 5月18日(土) 午後1時～午後8時 セミナー受付開始12時30分より

総合司会 小松伸子・高尾荘二

第1部 セレモニー 13:00～14:05

総合司会挨拶 小松伸子 (あうん健康庵・事務長) (5分)

開会の辞 鈴木一策 (理事・実行委員長) (5分)

代表挨拶 仁志天映 (代表・病癒し所『天心』) (5分)

基調講演 『生命とは何か—千島学説とソマチッド—』

衛藤公治 (理事・医師) (50分)

第2部 巻頭講演 14:05～14:55

『日本文明と古神道—その2』 坂田安儀 (伯家神道・身曾岐神社宮司) (50分)

—————休憩 (14:55～15:10)—————

第3部 「日本の農を問う」 15:10～17:30

『自然農に生きる—その2』 今野時雄 (私塾日本農士学校主宰) (50分)

『循環農法から見えたもの—その3』 赤峰勝人 (顧問・なずなグループ代表) (90分)

第4部 閉会の辞 小松健治 (副代表理事・医師)

—————親睦会準備 (17:30～17:45)—————

第5部 親睦会 17:45～19:45

・司会進行 小松伸子・高尾荘二
・挨拶 増本勝久 (副代表理事・ホワイトマックス代表)
・乾杯音頭 赤峰勝人 (研究会・顧問)
・大いに語ろう
・一発締め 杉本徳仁 (理事・丸和組合)

◎ 自然食(少々魚も入ります)、銀河高原ビール、自然酒、各種お飲み物用意します。

◎ 後片付け(18:45～20:00) ゴミ処理ができませんので、大変申し訳ありませんが、ゴミ袋を用意致しますので、各自が持ち帰り処分をお願い致します。

第2日目 5月19日 午前10時～午後5時30分

受付開始 AM9:30～

総合司会 高尾荘二 小松伸子

第1部 セレモニー

10:00～11:00

総合司会挨拶

高尾荘二 (血液循環療法) (5分)

開会の辞

小島秀樹 (副代表理事) (5分)

基調講演

『ips 細胞は夢の再生医療になりうるか』

酒向猛 (理事・医師) (50分)

第2部 巻頭講演

11:00～11:50

『病も身の内—千島生命哲学の奥行き—』

鈴木一策 (理事・哲学) (50分)

-----昼食休憩(11:50～12:50)-----

第3部 特別講演□

12:50～13:40

『ワクチンの怖さ—悲劇の歴史をふりかえる —』

白田篤伸 (歯科医師)

(50分)

第4部 お産を語る

13:40～16:45

特別講演□ 『お産の達人だった日本人』

三砂ちづる (津田塾大学教授) (50分)

-----休憩(14:30～14:45)-----

「自然分娩と向き合って」

14:45～16:05

□ 助産師の想い—自宅出産の感動— 齊藤純子 (助産院バスハーモニー) (40分)

□ 吉村先生から学んだこと—若い女性に語りたい— 島袋伸子 (吉村医院・お産の家・院長補佐) (40分)

最終講演 「放射線ごときに何を恐れるのか」

16:05～16:35

『放射線物質消染は結界を使って』

新野恵 (理事・サクセス・アイ代表) (30分)

第5部 参加者との対話

16:35～17:20

・質問、疑問を通して理解を深めよう

司会 鈴木一策 (実行委員長)

第6部 フィナーレ

・閉会の辞

衛藤公治 (学頭)

・一本締め

稲垣実 (副実行委員長)

◎ 後片付け終了後、近くの居酒屋で直会(なおらい・打ち上げ)を行います。ご都合のつく方は、ぜひご参加下さい。お互いの交流を深め、明日からの元氣と勇氣を頂きましょう。